

俳句の中には季語のない俳句もありますが、本区では「国語スタンダード」に「季節を感じ、俳句に親しむ」とあるように、季節感を大事にしています。

俳句の季節は、旧暦で捉えられているため、現代の感覚とは、ずれていることもあります。こどもたちだけでなく、大人も混乱してしまうかもしれません。

6月中旬くらいから、街のところどころに七夕飾りが見られるようになります。いくつかの学校でも笹に短冊が飾られる様子を見ることができました。「七夕」は新暦7月7日、旧暦では8月初旬にあたるため、「秋の季語」になります。

廊下に笹飾りがありました。「プールで1級になれますように」「ゲームが買ってもらえますように」などという短冊の中に「元気な赤ちゃんが生まれますように」を見付け、思わずにこっとしてしまいました。



芭蕉記念館や猿江恩賜公園にも毎年笹飾りが見られます。



こどもたちに『七夕』の俳句を作ってもらいました。「歳時記」では「秋の季語」ですが、身近な題材で俳句を詠みました。

想像俳句になってしまいますが、こどもたちの自由な発想で楽しみました。

「二人は今何してるだろう」という言葉がけで作った俳句です。

『ひこ星が予約をしたよレストラン』

『空の上ドレスとピアスおり姫さん』

『星祭りおり姫ひこ星会えるかな』

『空の上天の川はさむ二人かな』

季語がいくつも入っている句もありますが、その子らしさが出ていると思いました。